

巻 頭 言

2018年9月にスコットランドのグラスゴーでFIP2018が開催され、海外の友人に会う楽しみもあって出かけた時の話。もちろん、学会の発表や各種セッションは、興味深いものがあり、望外の友人に出会えたこともあって、楽しい学会参加だった。この時は、フライトの関係で2日ほど早くスコットランドに到着したため、勿怪の幸いとはばかりに、スコッチウイスキーの蒸留所のいくつかをレンタカーを借りて巡ってみた。スコットランドの蒸留所の数は100を超えていて、実に多種多様なウイスキーが作られているが、実際に市場に出回りやすいシングルモルトは限られているようだ。何故ならその多くはブレンデッドのウイスキーに混ぜるためであり、そのほか様々な理由でその蒸留所単品で瓶詰めされて出荷されることは、例外はあるものの、少ないからだろう。そんなスコッチのシングルモルト、実は一つの蒸留所で作られているとはいえ、お酒を蒸留して瓶詰めをするまでに扎扎实り同じ蒸留所内のお酒同士で混ぜられている。もっといってしまえば、水で薄めたりもしている。混ぜたり薄めたりする訳は、ウイスキーの製造方法にあるとのこと。どんなウイスキーも必ず一定期間樽の中で熟成させるのは同じだが、その熟成の間に、樽の香りを含んだり、味の深みが増したりと色々な変性が起きる。こればかりは自然による作用なので、それを防いだり、ムラ無く均一にしたりすることはできないそう。同じ土地や気候で同じ年数熟成したとしても、樽ごとの香味に差が出てしまう。味の異なりは微かであるものの、分かる方々には分かってしまう。そのため、蒸留所内の樽であっても、あえて混ぜることではばらつきを整え、安定した香味、度数を守っていくために均している、ということで、大変興味深く感じた次第である。

さて、医薬品の供給不安定問題である。令和6年8月の調査では、自社の都合による限定出荷品は全体の4% 633品目、他社の影響による限定出荷品が、7% 1,164品目、その他の理由による限定出荷品が1% 138品目、そして供給停止が9% 1,619品目とある。医療用医薬品の供給不足の発端となったのは、2020年12月に発覚した、ジェネリック医薬品のメーカーの品質不正問題からであり、もうじき4年になろうとしているのに一向に解決に向かわないのはいかなる理由だろう。製造現場での人手不足、多品種少量生産による製造スケジュールの過密化、薬価の下落による新たな設備投資資金確保の困難、原料費の高騰、加えて中間年改定による薬価の下落、追い打ちをかける円安、等々理由は山のようにあり簡単に解決とはいかないことは、理解はしているが、現場の薬剤師としては、相当苦しい思いをしている。

対策として国は、医療用医薬品の供給不安報告及び供給状況報告をメーカーに求める、供給情報緊急調査の日本製薬団体連合会による調査と報告などを行って現状把握につとめているが、製造業の改革はもちろん、薬価の下落を緩やかにするためにも中間年改定の休止や中止に加えて、今こそ抜本的な薬価制度の再検討に取り掛かるべきであろう。また約13,000品目ある薬価収載品についても、品目数の見直しが必要ではないかと考えている。医療現場でできることは、医療機関や薬局が協調して地域医薬品集を作成し、効率よく、かつ、患者さんに迷惑の掛からない医薬品提供体制を構築することも有効ではないかと考える。薬局に在庫の残りにくい標準化（箱出し）調剤も検討に値する方策かもしれない。

需要の急変やブームの過熱によるウイスキーの原酒不足問題の解消は、製販一体の取り組みや、バーテンダーたちの努力の甲斐もあって、15年たって解消に向かいつつあるという。

医薬品の供給不安では、ウイスキーのような熟成期間は無いので、関係者が意見や対策を出し合い一丸となって、一刻も早く解消ができることを願っている。

2024年12月

日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会理事
公益社団法人日本薬剤師会会長

岩 月 進